

氏名 ( )

### 難民五輪選手団

その瞬間、リオデジャネイロ五輪の柔道会場から大きな拍手がわき起こった。男子90kg級でポボル・ミセンガ選手が初戦を白星で飾った。

内戦が続くコンゴ(旧ザイル)を離れブラジルに難民申請をした。五輪史上初の「難民五輪選手団」に選ばれた10人のうちの1人だ。

戦火を逃れ、新しい土地で未来を切り開きたいと願う人たちの代表である。五輪で躍動する選手たちにエールを送りたい。

選手団は各競技団体の選考を経て結成された。国際オリンピック委員会(IOC)が国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)と連携し、200万ドルの特別基金を設立した。選手団は来月7日に開幕するパラリンピックでも結成される。

五輪選手団の10人のうち、2人はシリアからヨーロッパへと逃れた水泳選手だ。南スーダンやエチオピアを離れたのは男女6人の陸上選手。そしてミセンガ選手ともう1人の女性の柔道選手は、コンゴからブラジルへと渡った。

国連の年次報告によると、紛争や迫害による難民や国内避難民は、2

## 希望の代表は訴えかける

015年末時点で6530万人に上る。戦後最悪の数字だ。

五輪開幕を前に、会見に臨んだ選手団のメンバーは「世界中の難民の希望になりたい」と語った。6500万人を超す人たちが希望を失い、苦悩の日々を送っている。支援が足りないことは明らかだ。

日本は欧米諸国に比べ難民の認定数が少なく、支援に後ろ向きとされている。主要国のメンバーとして、次の五輪の開催国として踏み込んだ貢献を検討すべきだろう。

難民申請したミセンガ選手ら2人を受け入れたのは、ブラジル男子代表の前ヘッドコーチが主宰するリオの柔道場だ。今大会ブラジル初の金メダルに輝いた女子57kg級のラファエラ・シルバ選手も拠点とする。

ファベラ(貧民街)で貧困と暴力にさらされながら育った彼女もまた、柔道との出会いによつて希望を見いだした。そして同じような環境で育ち、今も暮らす人々の胸に希望をともし存在となった。

戦火や貧困の中で困難を乗り越え、未来を切り開く。そんな力がスポーツには確かにある。

メダル争いばかりでなく、五輪という舞台で選手が発するメッセージをしっかりと受け止めたい。

2016.8.16

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

① この記事を要約しましょう。

② 記事を読んだ感想を書きましょう。

NEWワークシート／中学校／高校／国語、道徳、総合、朝NIE